

ガンジーの言葉

JA 北海道厚生連 倶知安厚生病院 総合診療科

水戸 啓貴

勤医協苫小牧病院の佐藤南斗先生からバトンを渡していただきました。佐藤先生とは高校時代からの友人であり、今回このような機会をいただけたことを感謝したいと思います。

この原稿を執筆している2020年3月30日、偉大なコメディアン志村けんさんが新型コロナウイルスによる肺炎でお亡くなりになりました。幼少期はビデオに録画したバカ殿様で何度も笑っていたのを覚えています。心よりご冥福をお祈り申し上げます。発症から亡くなるまでが2週間程度とのことであり、人の死とはいつやって来るものかは誰にも分かりませんが、それを強く実感しています。

私の勤務する倶知安厚生病院は羊蹄山麓地域の中核病院であり、日々さまざまな患者さんが来院されます。羊蹄山麓は皆さんご存知の通り、今や世界的なスキーリゾート地であり、冬になると27万人もの外国人（2017年・倶知安町とニセコ町合わせて）が訪れます。待合室に外国人の姿を見ると、「冬が来たな～」と思いながら働いています。私の所属する総合診療科では一般外来の他に内科救急も担当しており、救急車で来院される外国人もちらほら見かけます。年間を通して数件しかありませんが、外国人の心肺停止患者さんも搬送されることがあります。私も先日当直の際に、心肺停止の外国の方が救急搬送されて来ましたが、その方は残念な結果となってしまったのですが、当院の通訳がない時間帯であり翻訳アプリで死亡確認せざるを得なく、大変申し訳なく思っています。ただ、持病もなく、私と10歳も変わらない方の死の前に、いつ死ぬかなんて分から



デスクから望む羊蹄山（佐藤南斗先生撮影）



1991年、北海道佐呂間町生まれ。函館、旭川を経て倶知安在住。趣味は旅行、特に沖縄の離島巡りが好き。将来的には在宅や緩和に興味があるが、日々模索中の総合診療専攻医3年目。

【写真】大学の勉強会メンバー旅行での竹内悠仁先生（写真右）と水戸（写真左）

ないなと再度実感すると同時に、少しだけ恐怖を覚えました。

マハトマ・ガンジーの言葉に「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ」という言葉があります。私は高校で親元を離れ、寮生活をしていましたが、入寮して1ヵ月くらいのときに母から上の言葉の切り抜きが送られてきました。最初は机が寂しくて挟んだ切り抜きでしたが、気付けば毎日その切り抜きを読んでから自習時間を過ごしていました。そして、今の自分を作っているのは過去の自分であり、未来を良くするには今の自分が目標に向かって動かないといけない、明日死んでも後悔しないよう頑張らねば、と思ったものでした。私は明後日から3ヵ月間の救急科研修となります。救急は自分の中でも特に弱い分野ですが、1つでも多くのことを吸収できるように1日1日を過ごしていきたいと思います。そして、1日でも早く新型コロナウイルス感染症が終息することを祈っております。

次回は大学からの友人であり、同僚の竹内悠仁先生にバトンを渡したいと思います。